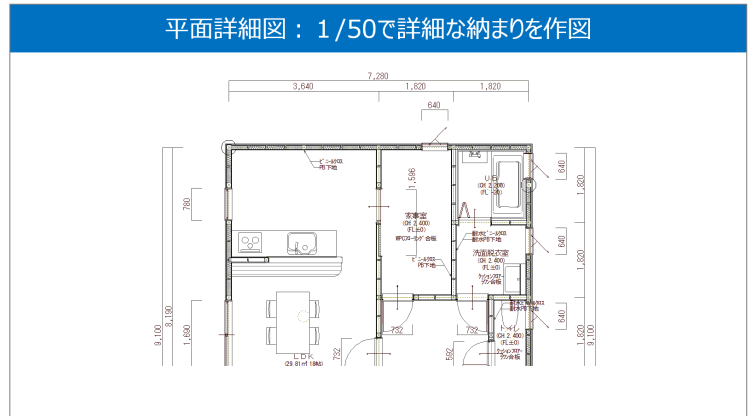


平面詳細図

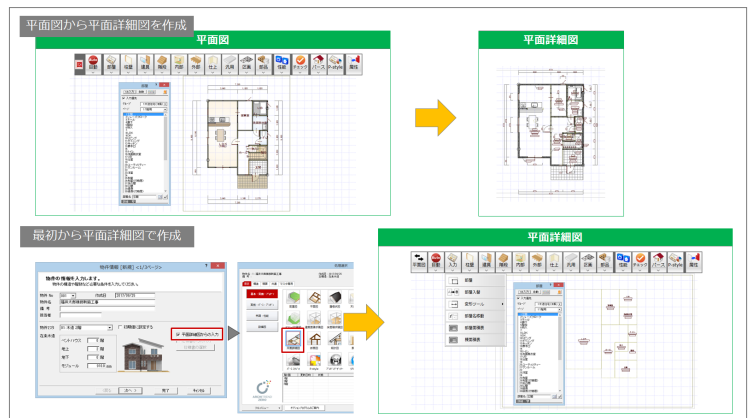
- 1 平面詳細図の作成方法について _____ 1
- 2 平面図の確認と寸法線の入力 _____ 1
- 3 平面詳細図の自動作成 _____ 2
- 4 連動内容の確認 _____ 3
- 5 連動後の変更、平面図への逆連動 _____ 5

1. 平面詳細図の作成方法について

平面詳細図は、1/50 で詳細な納まりを作図したものです。



作成方法は、平面図で間取りなどを入力して平面詳細図へ連動する方法と、最初から平面詳細図で間取りなどを入力する方法があります。

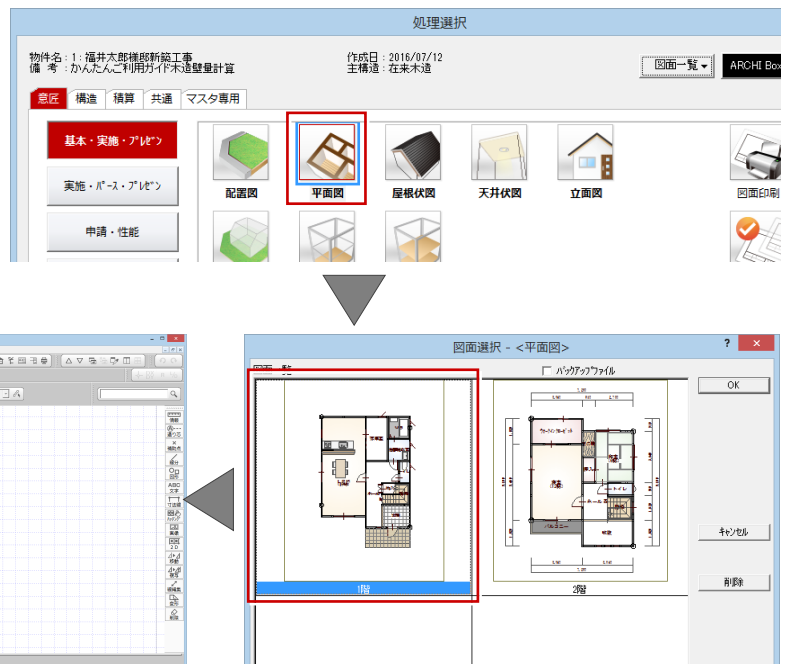


ここでは、平面図から平面詳細図へ連動する方法について解説します。

2. 平面図の確認と寸法線の入力

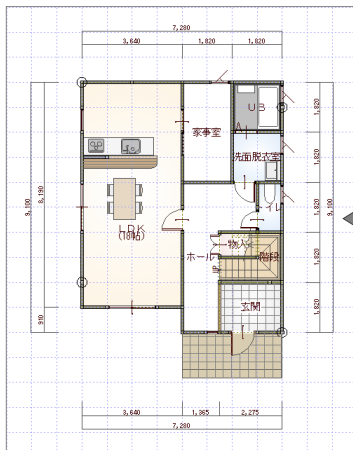
では、はじめに平面図のデータを確認しましょう。

1 階平面図を開きます。



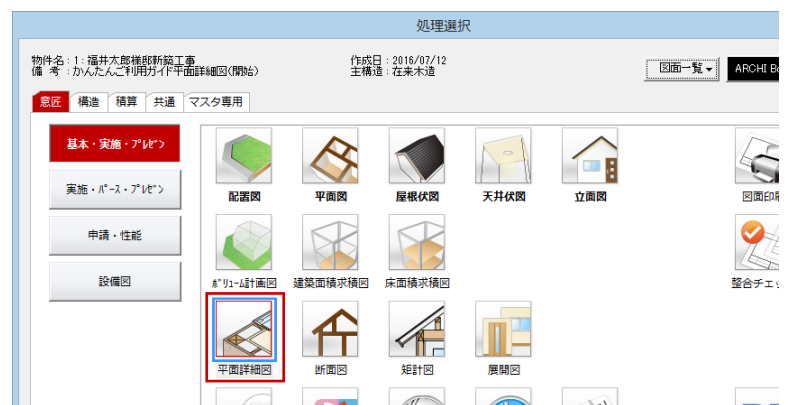
すでに、1 階の間取り、建具の入力、柱や壁、仕上の作成を終えた状態とします。

部屋の寸法線を作成していない場合は、「一括作成」メニューから「図面化」を選び、「部屋寸法」をONにして作成しておく、平面詳細図に連動します。

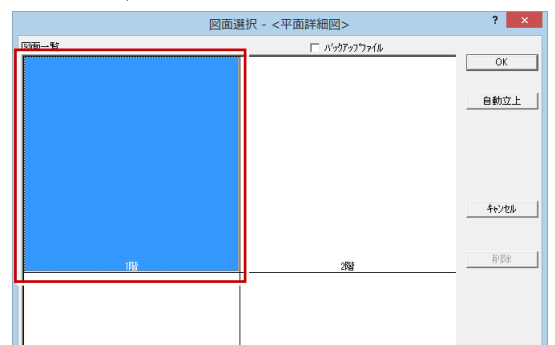
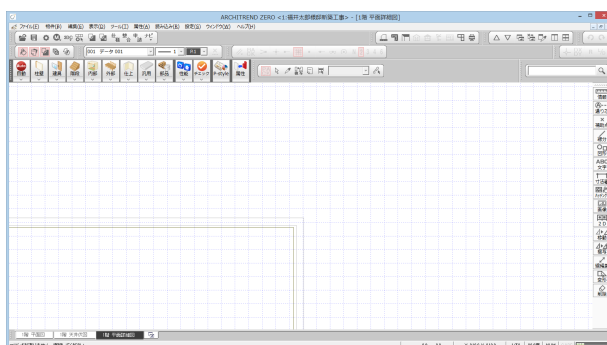


3. 平面詳細図の自動作成

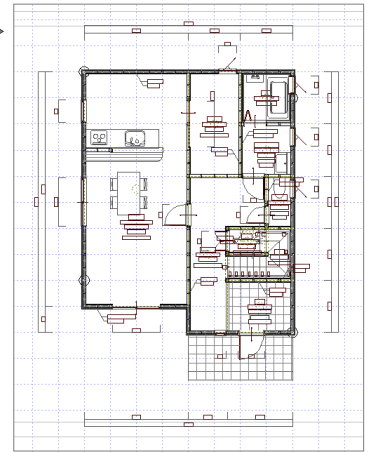
平面図の入力が終わったら、平面詳細図を作成しましょう。



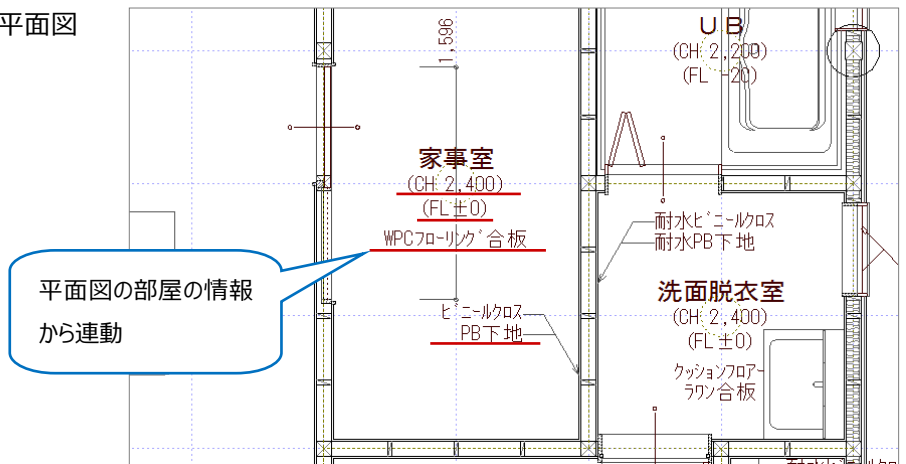
平面詳細図の1階を開きます。



「自動立上」をクリックすると、平面図のデータを基に、平面詳細図が作成されます。

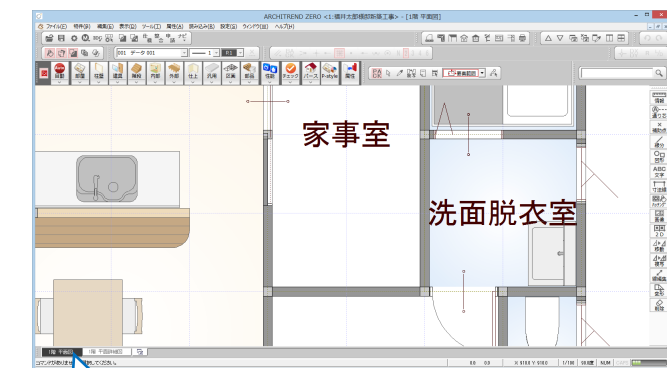


壁や床の仕上名称、天井高や FL の高さは平面図で入力した部屋の情報から連動します。

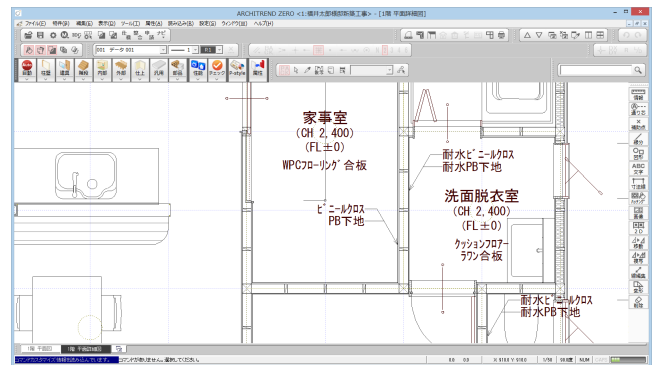


4. 連動内容の確認

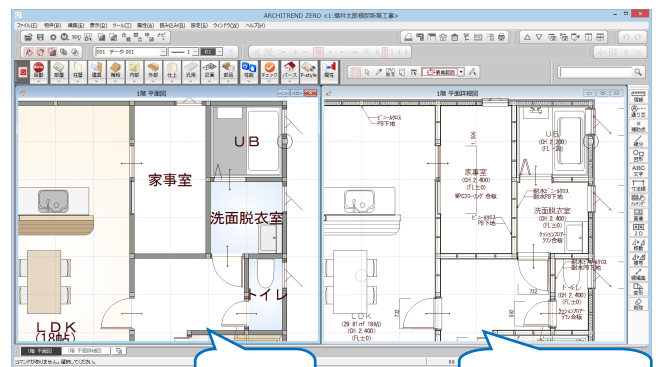
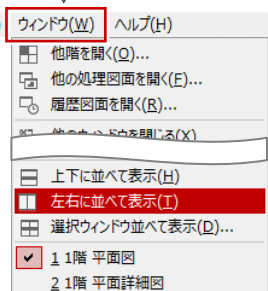
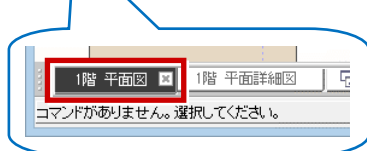
平面図と平面詳細図を左右に表示して、連動した内容を確認しましょう。



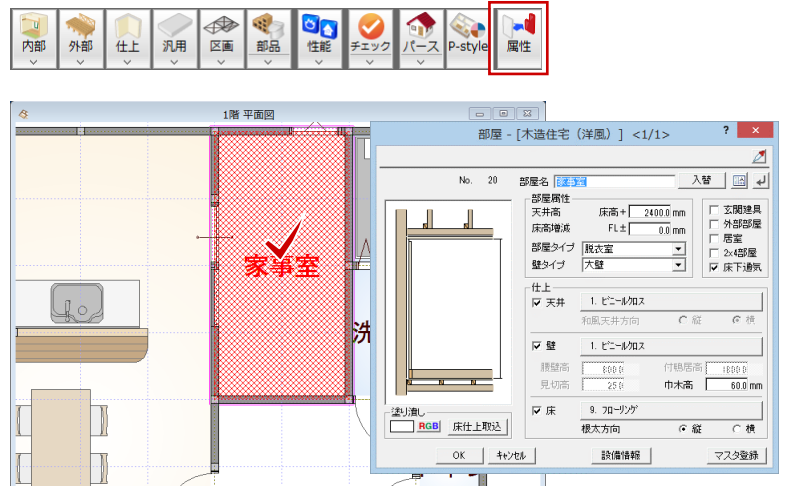
【1階平面図】



【1階平面詳細図】

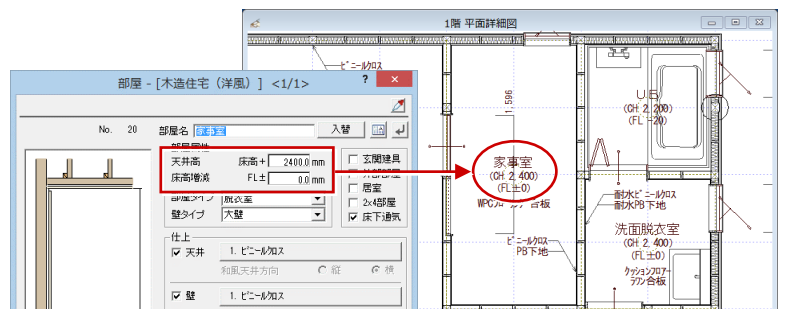


平面図で、例えば家事室の属性ダイアログを表示します。



【1階 平面図】

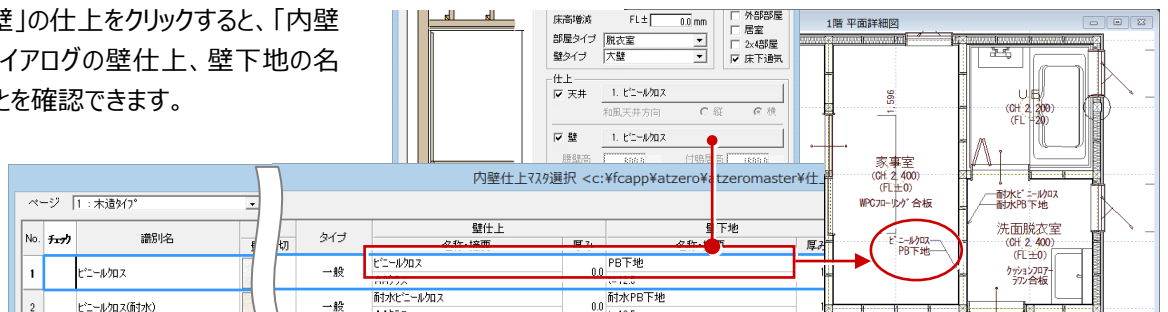
「天井高」「床高増減」の値が平面詳細図に連動していることを確認できます。



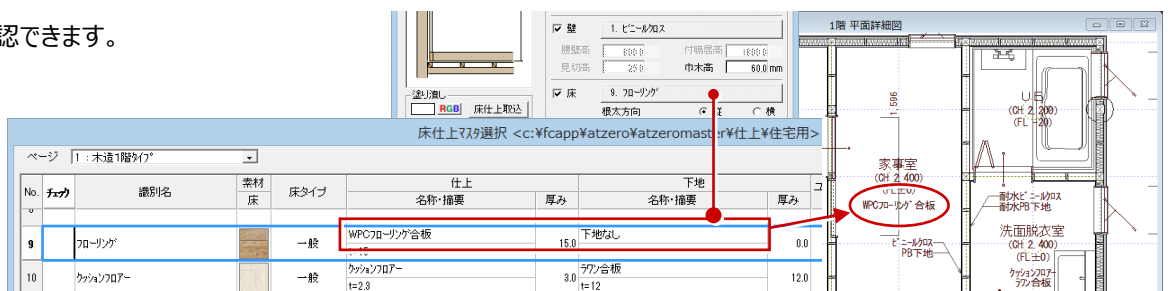
【1階 平面図】

【1階 平面詳細図】

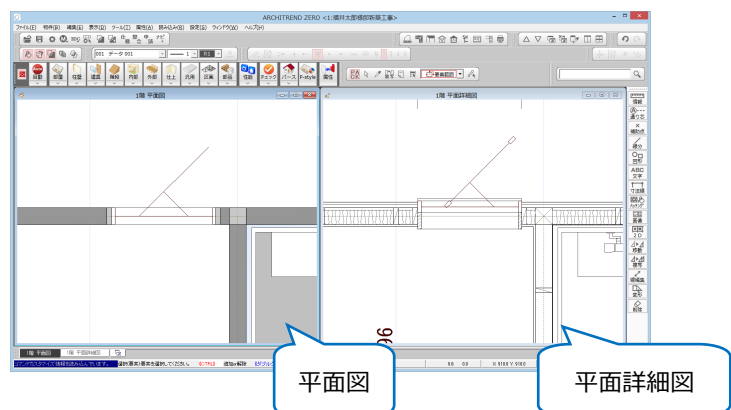
また、ダイアログの「壁」の仕上をクリックすると、「内壁仕上マスタ選択」ダイアログの壁仕上、壁下地の名称が連動していることを確認できます。



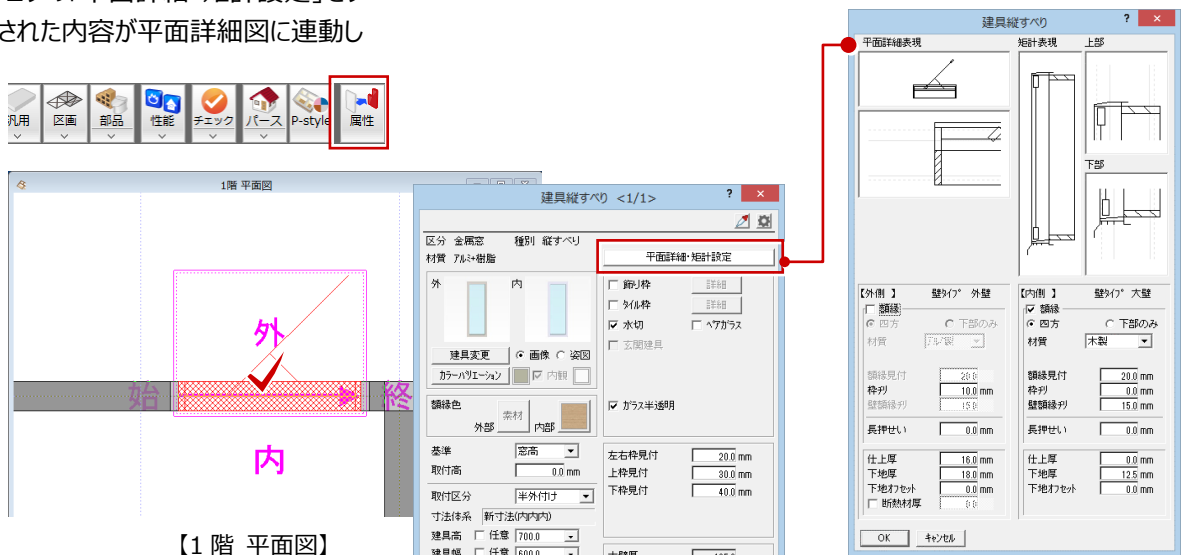
床仕上も同様に確認できます。



建具についても、平面図の入力内容が連動します。



建具の属性ダイアログの「平面詳細・矩計設定」をクリックします。表示された内容が平面詳細図に連動しています。

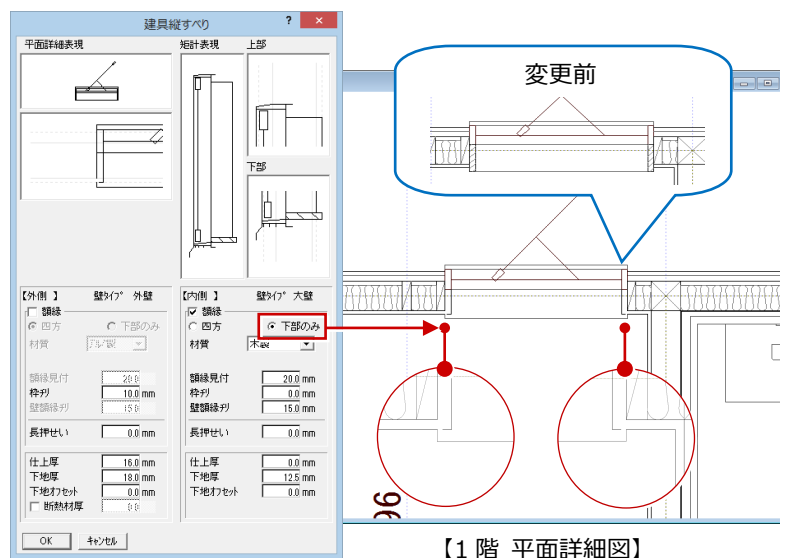


【1階 平面図】

5. 連動後の変更、平面図への連動

ここでは内側の額縁を「下部のみ」に変更してみます。

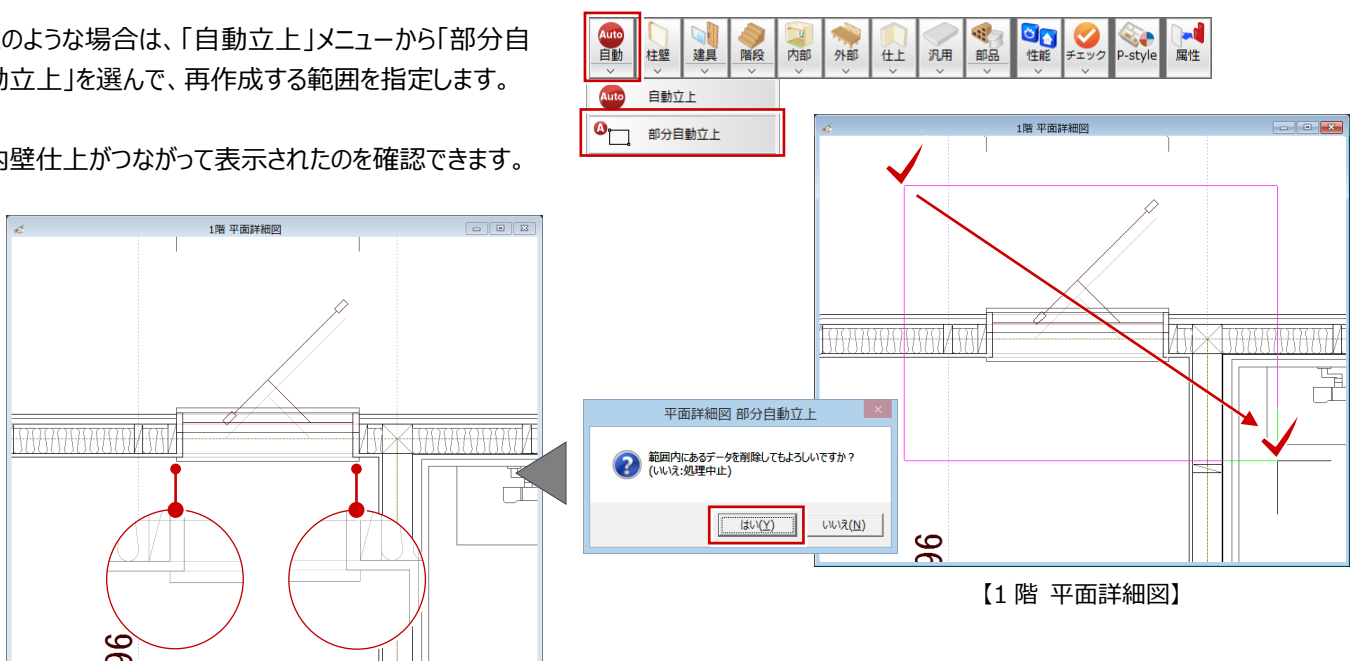
平面詳細図の額縁の表現がなくなりましたが、同時に内壁仕上が途中で途切れました。



【1階 平面図】

このような場合は、「自動立上」メニューから「部分自動立上」を選んで、再作成する範囲を指定します。

内壁仕上がつながって表示されたのを確認できます。



【1階 平面詳細図】

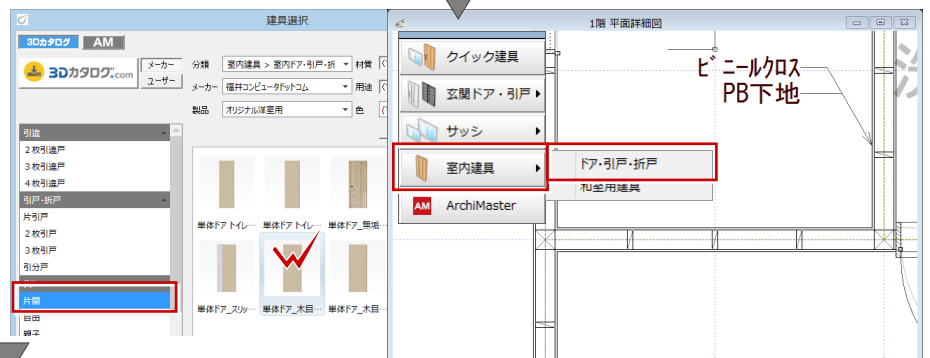
また、平面詳細図から専用コマンドを使用して、建具や柱などを入力すると、平面図への逆連動も可能です。

ここでは家事室に片開きドアと、柱を入力してみます。

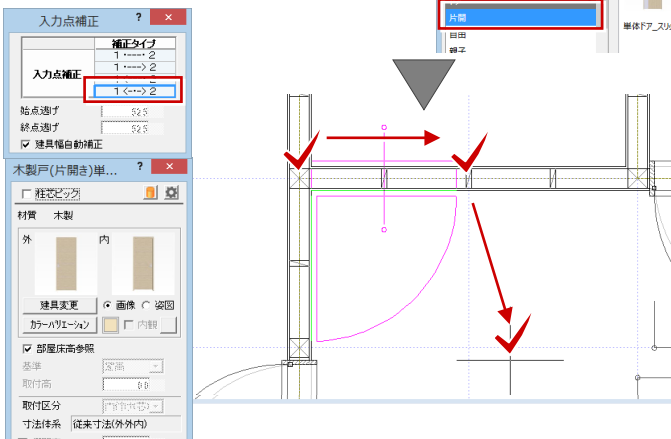


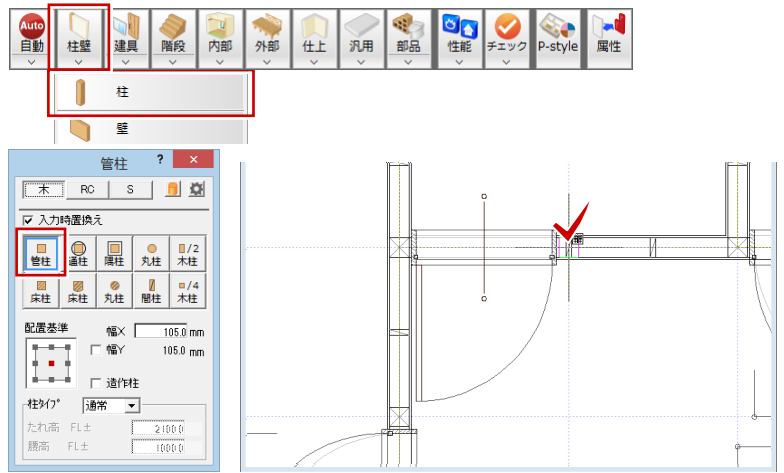
【1階 平面詳細図】

片開きドアを入力します。



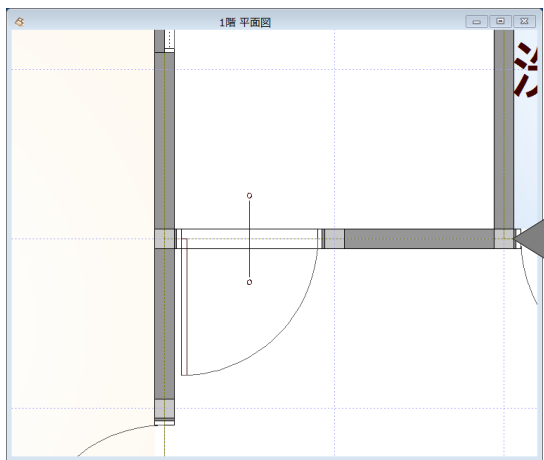
【1階 平面詳細図】



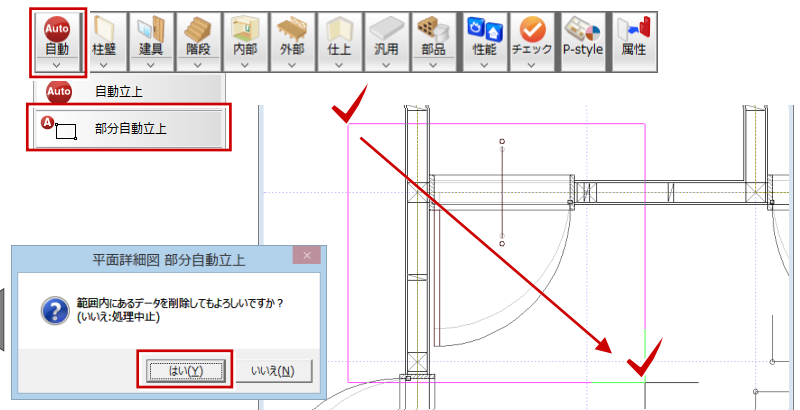


次に柱を入力すると、間柱と重なるので、「部分自動立上」を行います。

平面図にもドアと柱が入力されたことを確認できます。



【1階 平面図】



以上で、平面詳細図の説明を終わります。

より詳細な操作内容を確認する場合には、教材動画のご利用をご検討ください。